

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年3月6日

予報期間：3月8日～4月7日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北日本では、期間のはじめは気温がかなり高くなる所がある見込みです。
沖縄・奄美では、期間の前半は気温の変動が大きいです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。
北・東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

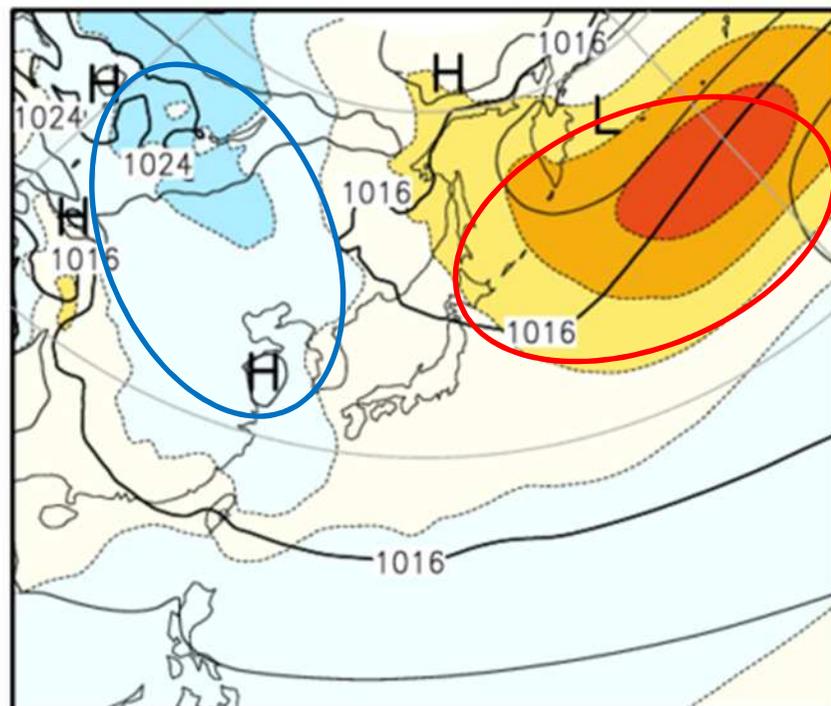
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:30:60	40:40:20	20:40:40	
	太平洋側		30:30:40	40:30:30	
東日本	日本海側	20:30:50	40:40:20	20:40:40	
	太平洋側		30:30:40	30:40:30	
西日本	日本海側	20:50:30	40:30:30	30:30:40	
	太平洋側		30:40:30	30:30:40	
沖縄・奄美		40:30:30	30:40:30	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:40:50	20:30:50
東日本	10:30:60	20:50:30	20:40:40
西日本	10:30:60	40:40:20	30:30:40
沖縄・奄美	10:20:70	70:20:10	40:30:30

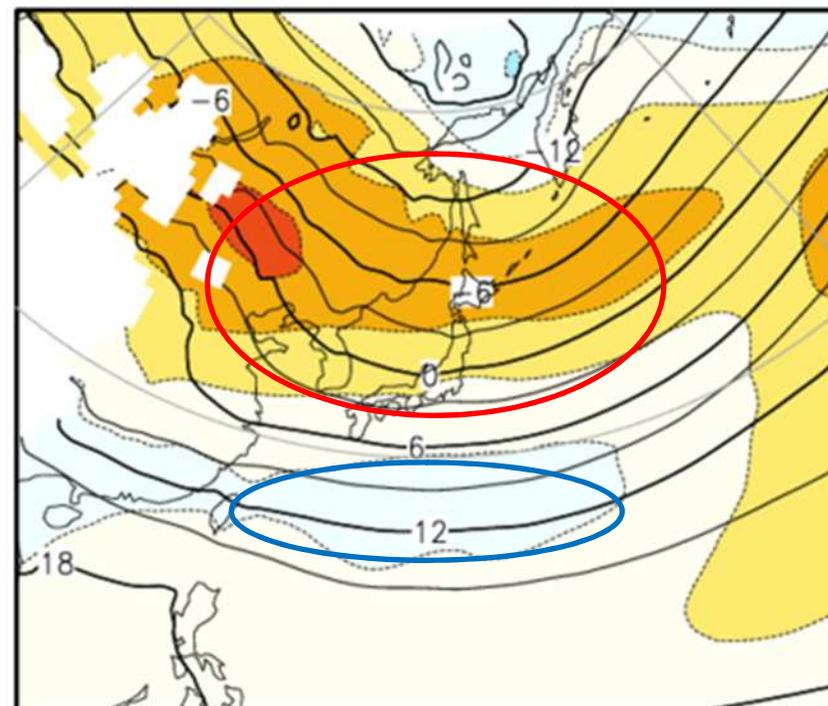
全般予報のポイント

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は北・東日本で高いでしょう。特に、北日本では、期間のはじめは気温がかなり高くなる所がある見込みです。
- ・北・東日本日本海側では、西高東低の気圧配置が弱く、高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、1週目は気温がかなり高くなりますが、2週目はかなり低くなる可能性があり、気温の変動が大きいです。

海面気圧(1か月)

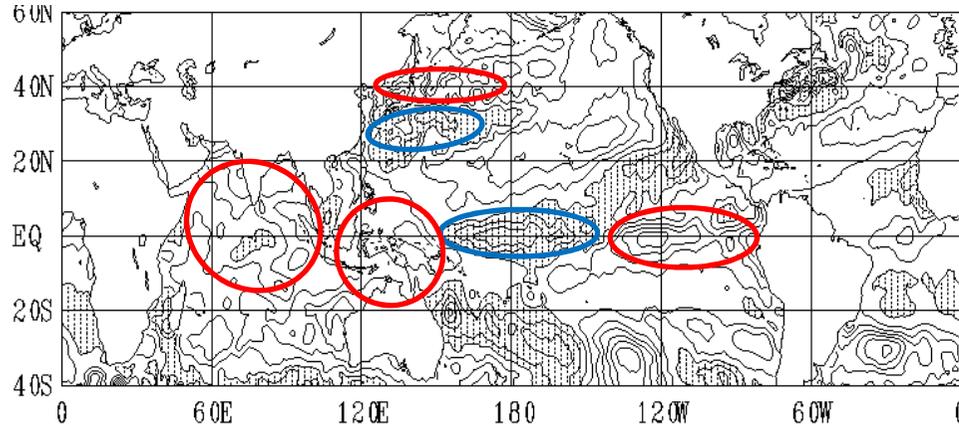


上空約1500mの気温(1か月)



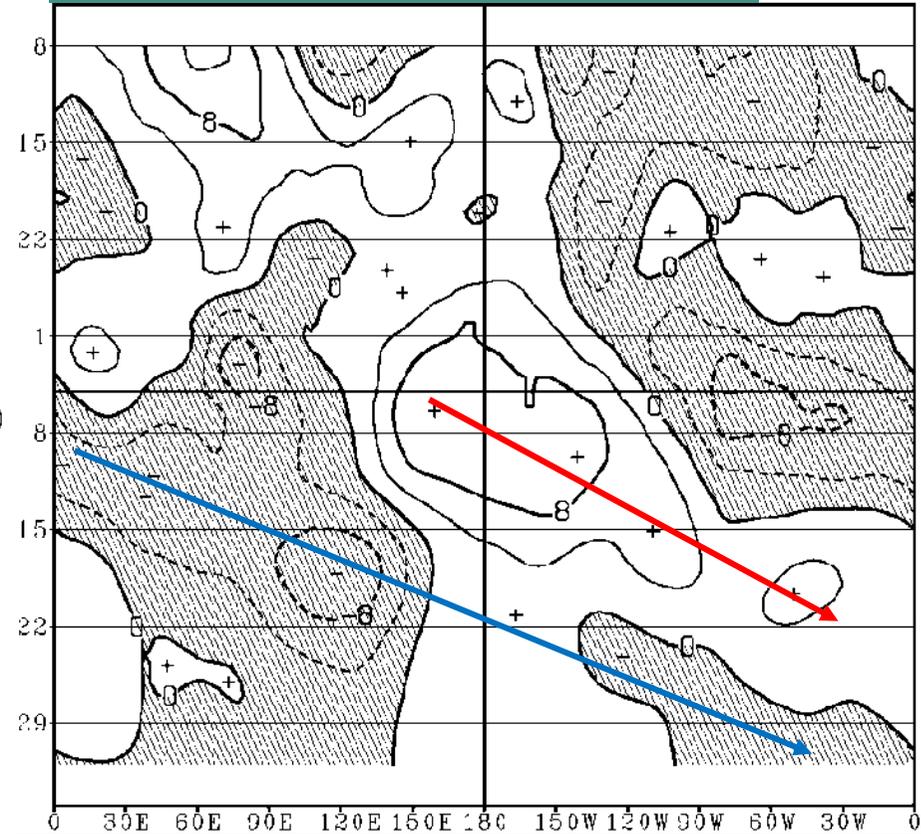
1か月平均の海面気圧(左図)は、日本付近は西高東低の気圧配置が弱く、北・東日本日本海側を中心に高気圧に覆われやすいでしょう。
 上空約1500mの気温(右図)は、北日本を中心に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。一方、日本の南では平年より低く、沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

SST偏差



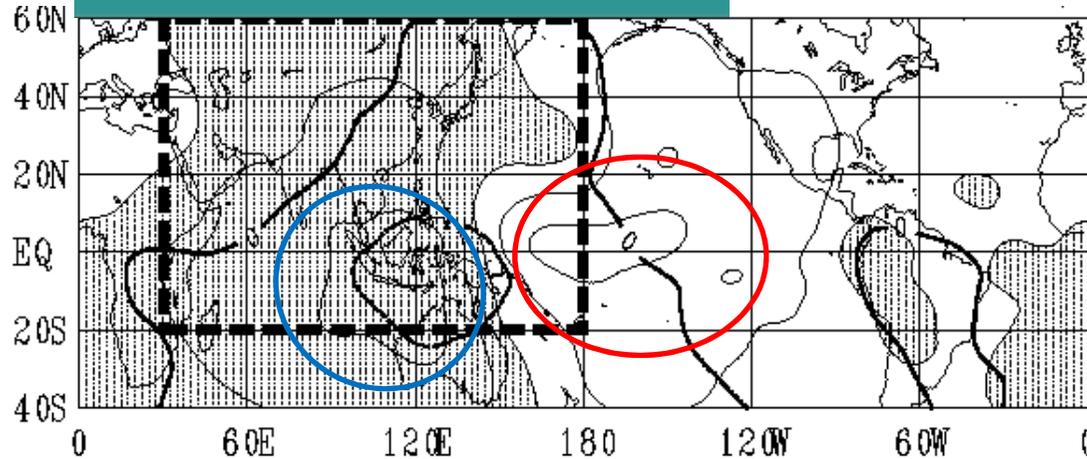
熱帯域では、インド洋と東南アジア周辺、太平洋東部で正偏差、日付変更線付近で負偏差。日本付近では、日本海北部から日本の東にかけて正偏差、日本の南で負偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



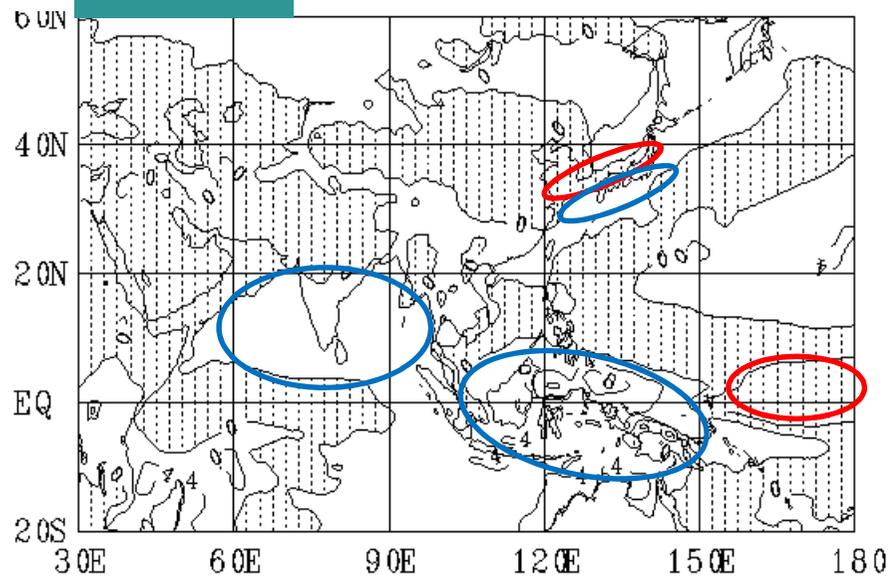
1週目から2週目にかけてMJOの対流活発位相がインド洋からインドネシア付近へ東進。3、4週目はインドネシア付近で対流活発が続く。

200hPa速度ポテンシャル



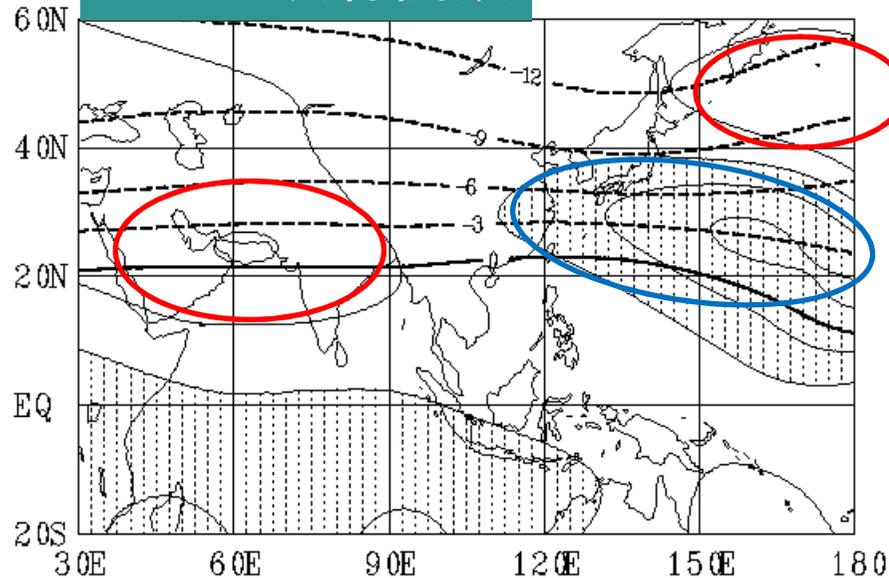
インド洋からインドネシア付近で上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



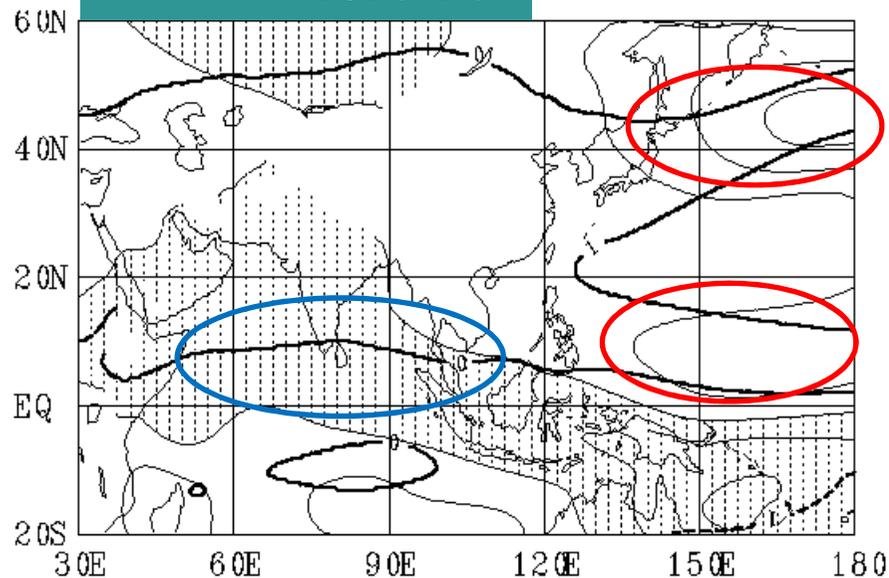
インド洋北部やインドネシア付近で多雨偏差の一方、日付変更線の西で少雨偏差。
日本付近は、日本海側で少雨偏差、太平洋側で多雨偏差。

200hPa流線関数



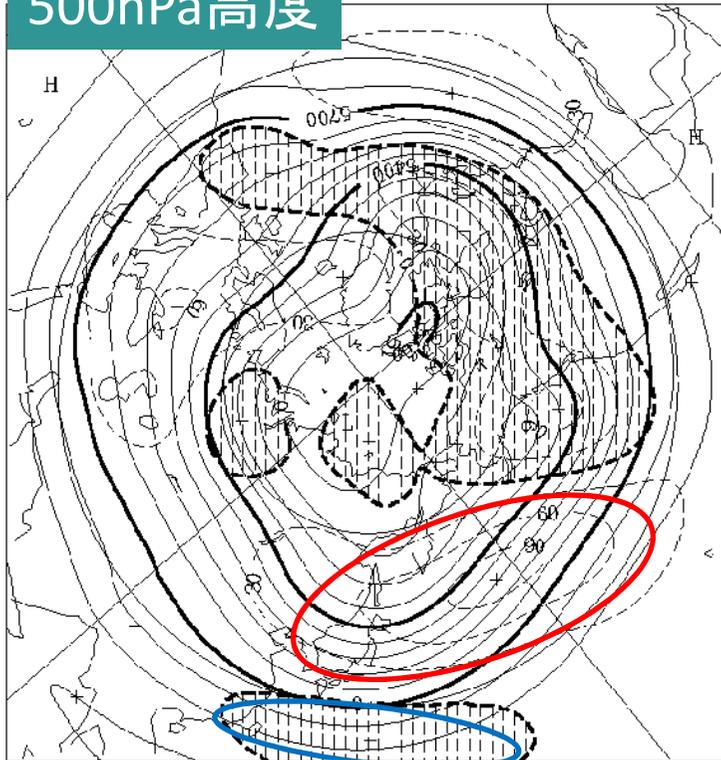
熱帯の対流活動に対応して、アラビア半島からインド付近で高気圧性循環偏差。華中から日本の南東で低気圧性循環偏差。千島の東では高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、インド洋北部で低気圧性循環偏差、フィリピンの東で高気圧性循環偏差。北日本から千島の東では高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

500hPa高度

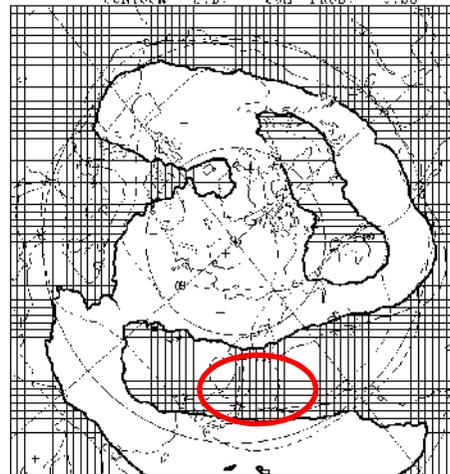
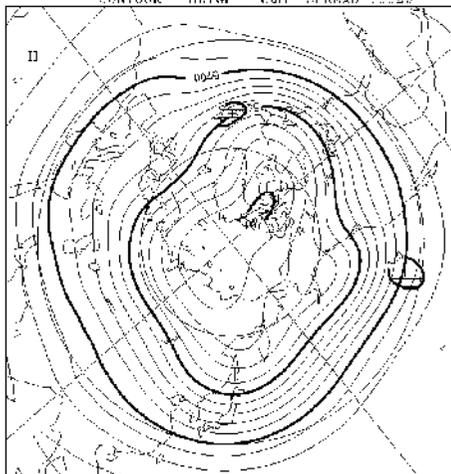


500hPa SPREAD AND LIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

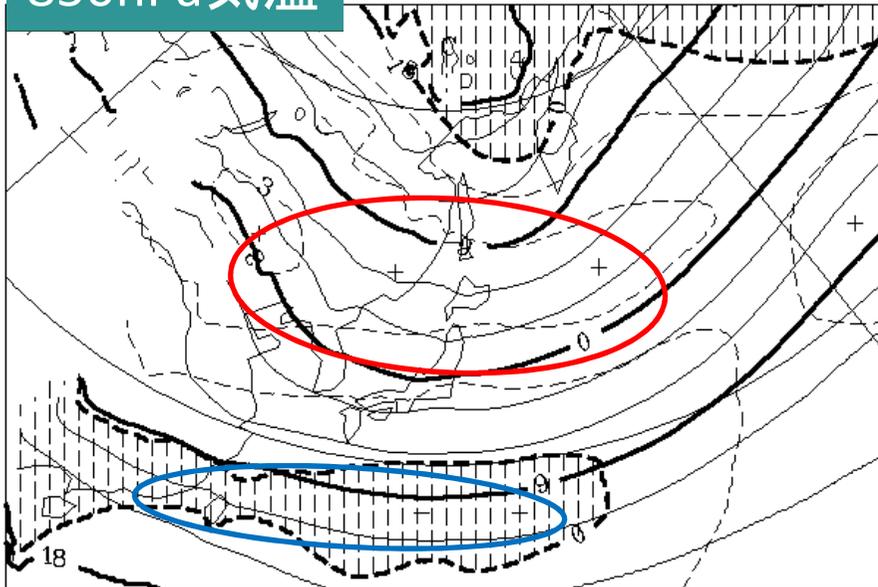
CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 30m PROB: 0.25



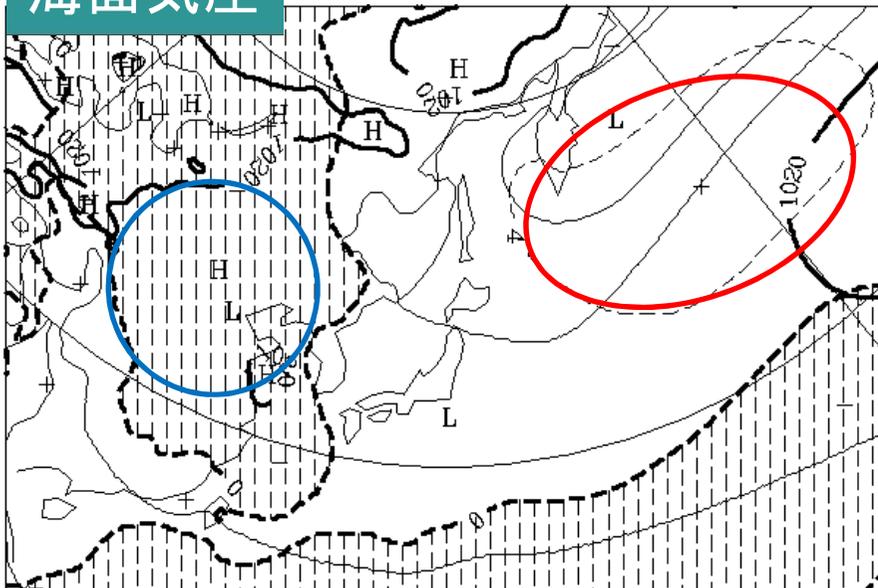
中国東北区からアリューシャンの南にかけて正偏差で、北日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。一方、日本の南は負偏差。

850hPa気温



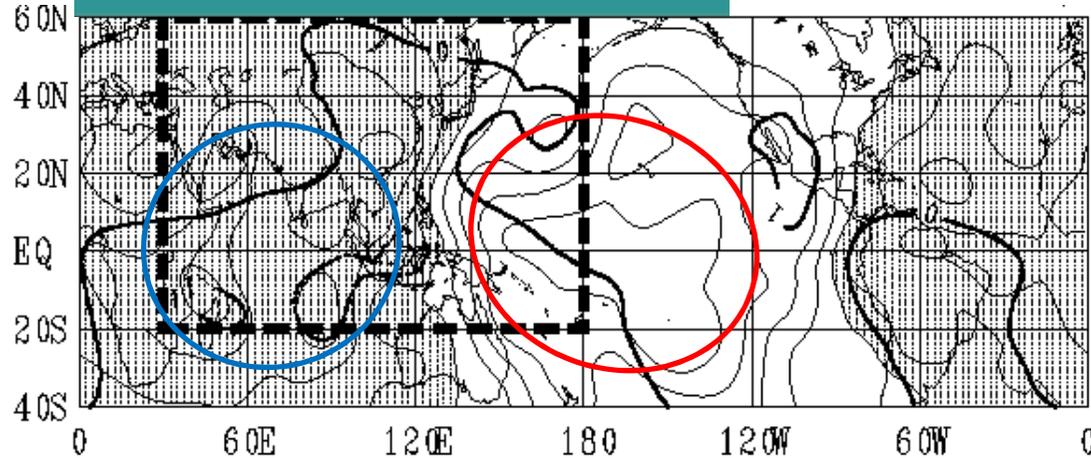
北日本を中心に正偏差で、北・東日本は暖かい空気に覆われやすい。一方、日本の南は負偏差で、沖縄・奄美は寒気の影響を受けやすい時期がある。

海面気圧



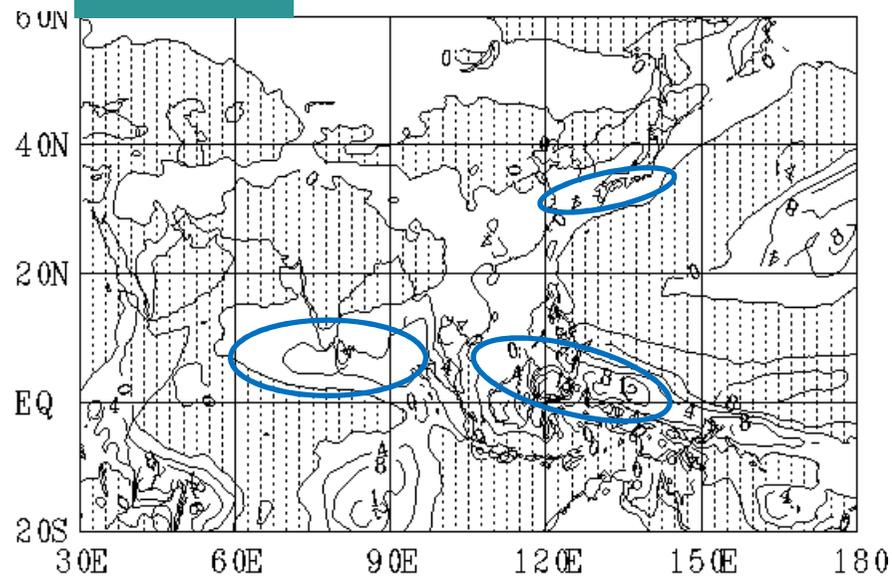
日本のはるか東が正偏差、華北付近が負偏差で、西高東低の気圧配置は弱い。北・東日本日本海側を中心に高気圧に覆われやすい。

200hPa速度ポテンシャル



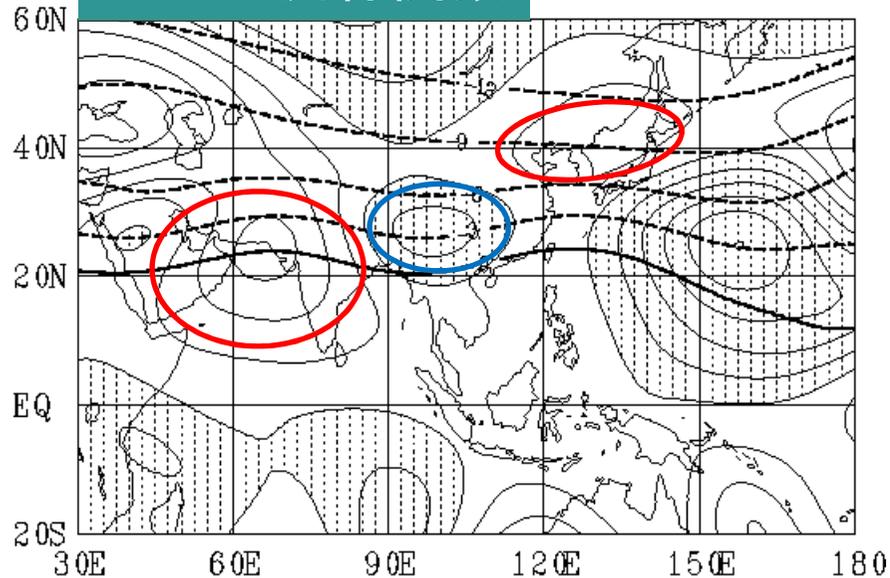
インド洋で上層発散偏差、日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



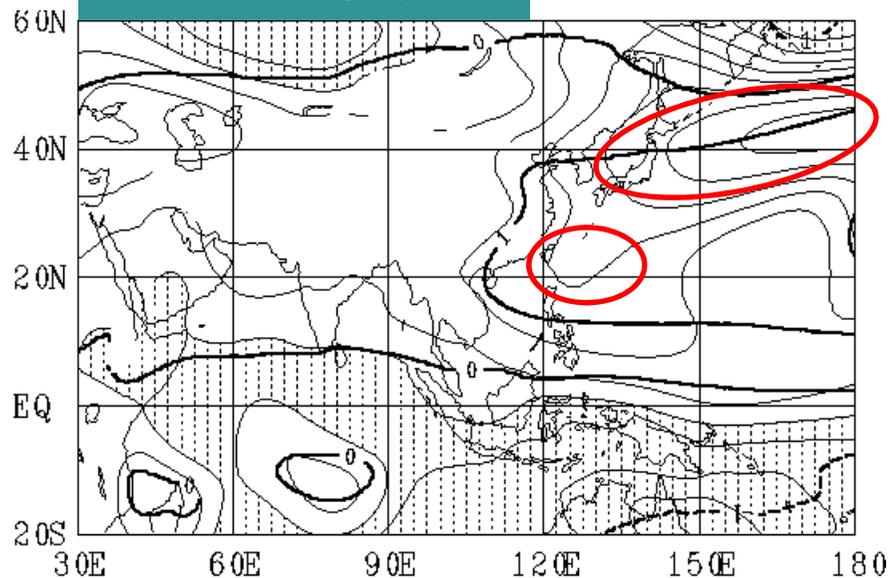
インド洋北部やインドネシア付近で多雨偏差。
日本付近は東・西日本太平洋側中心に多雨偏差で、低気圧や前線の影響を受ける。

200hPa流線関数



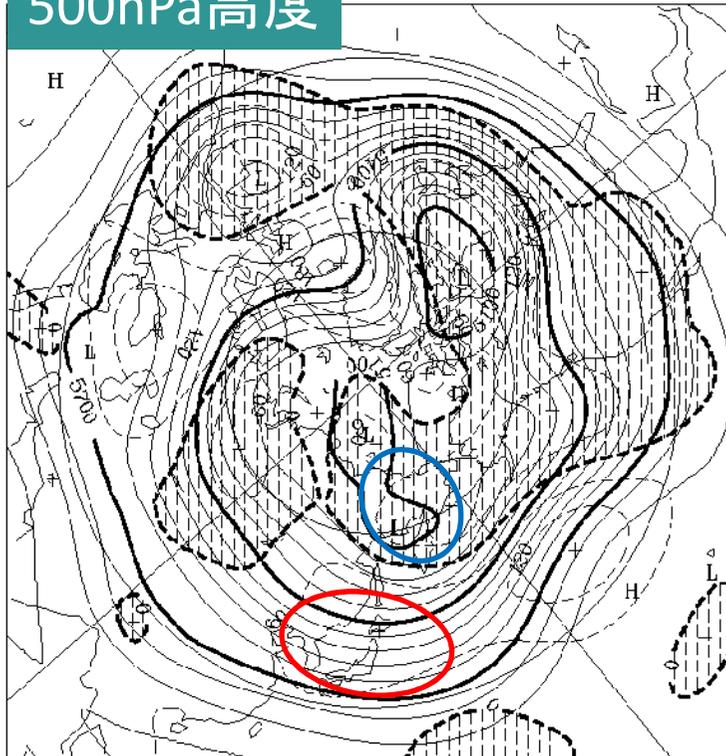
熱帯の対流活動に対応して、アラビア海で高気圧性循環偏差、その下流のチベット付近で低気圧性循環偏差、中国東北区から北日本付近で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

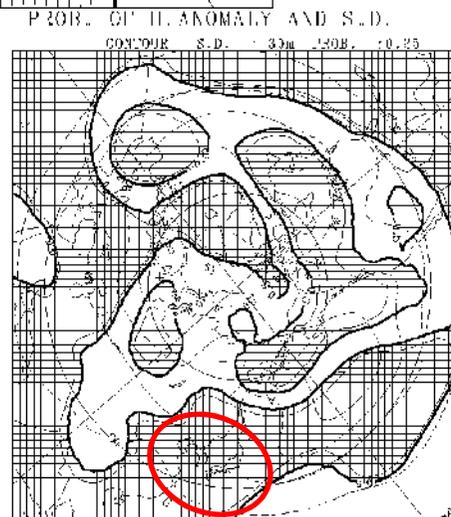
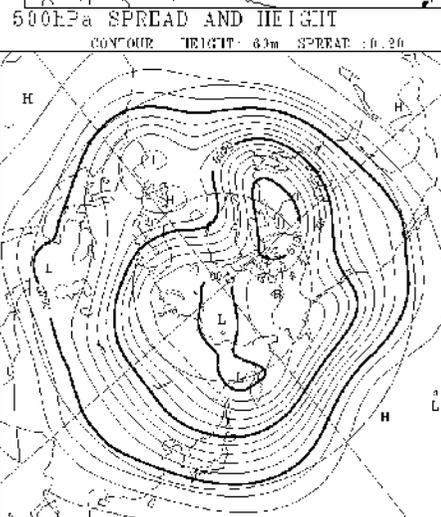


日本のはるか東で高気圧性循環偏差。沖縄の南でも高気圧性循環偏差で、その間の東日本太平洋側と西日本では湿った空気の影響を受けやすい。

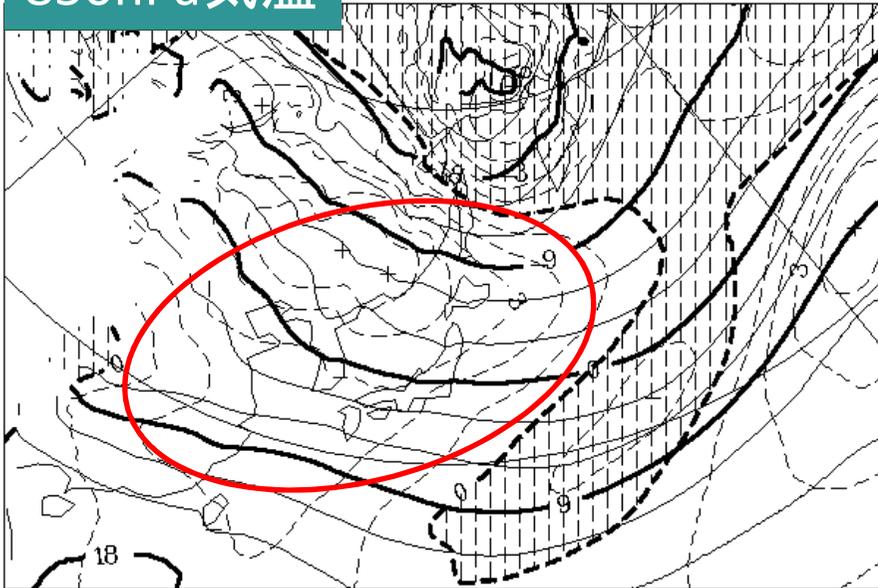
500hPa高度



東シベリア付近に分裂した極渦の一つがあり、日本付近は北日本中心に正偏差で、日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

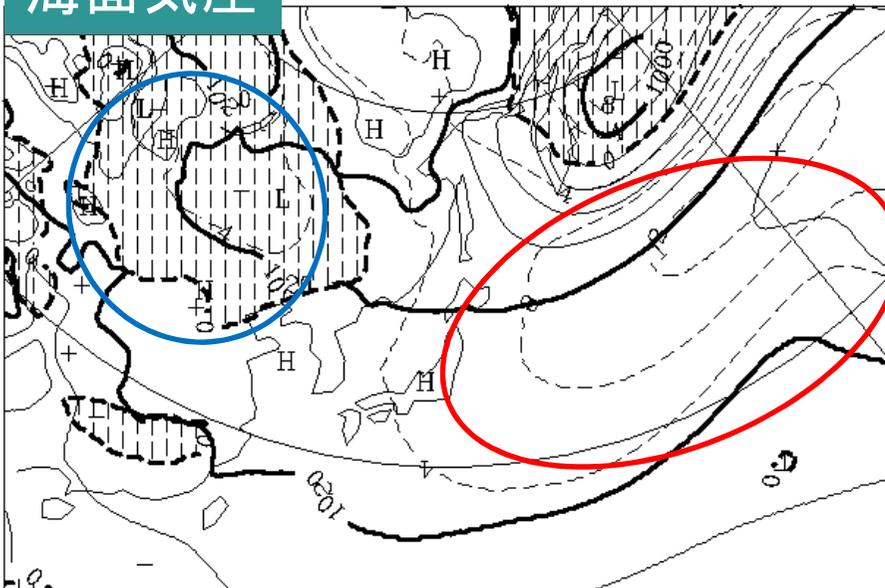


850hPa気温



日本付近は大陸からのびる正偏差に覆われ、全国的に暖かい空気に覆われやすい。

海面気圧



大陸で負偏差、日本のはるか東で正偏差が強く、日本付近は西高東低の気圧配置が弱い。北日本中心に高気圧に覆われやすいが、東・西日本太平洋側を中心に低気圧や前線の影響を受ける時期もある。

想定される天候

北・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。

北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国で高温。北日本と沖縄・奄美では気温がかなり高くなる所がある見込み。

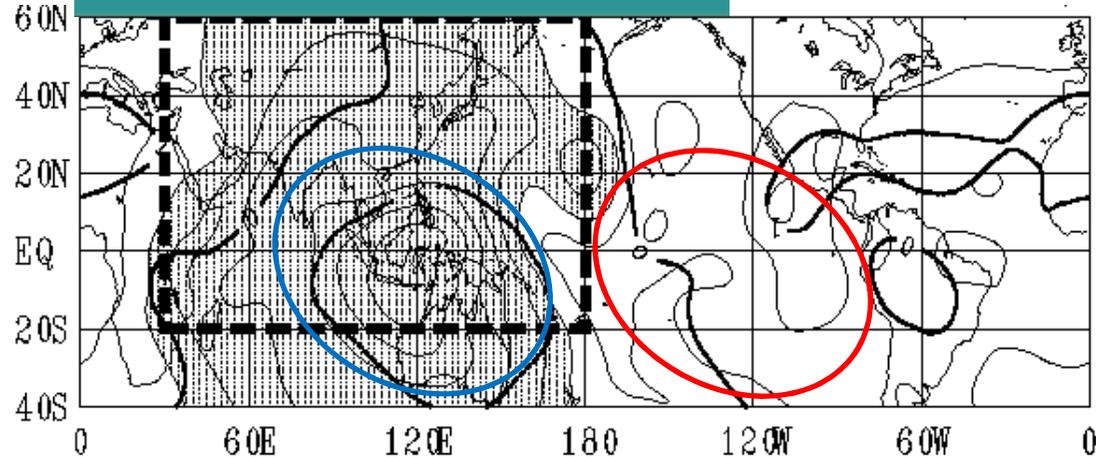
<天候>

・北・東日本日本海側は、西高東低の気圧配置が弱く、高気圧に覆われやすい。

・東日本太平洋側と西日本は、低気圧や前線の影響を受けやすい。

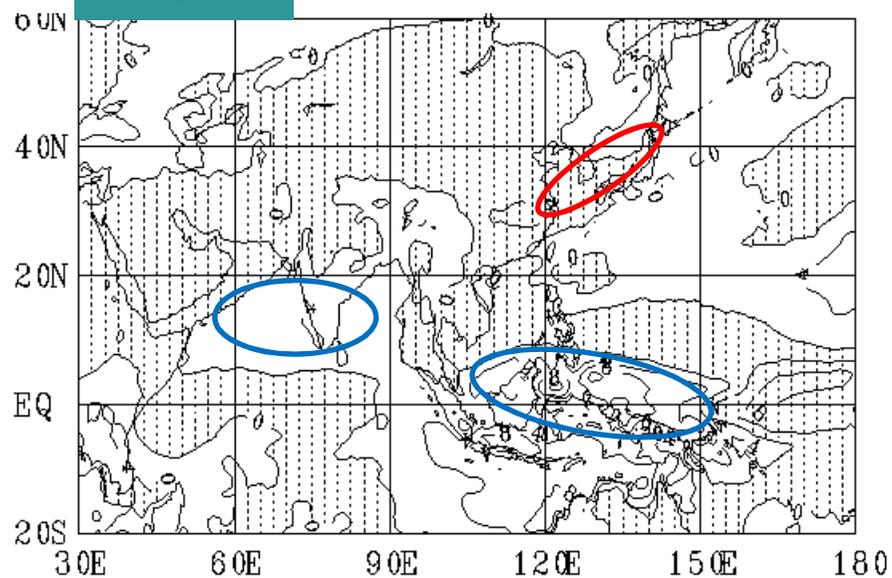
・沖縄・奄美は、平年並の天候を見込むが、低気圧や前線の影響は受けにくいいため、少雨傾向。

200hPa速度ポテンシャル



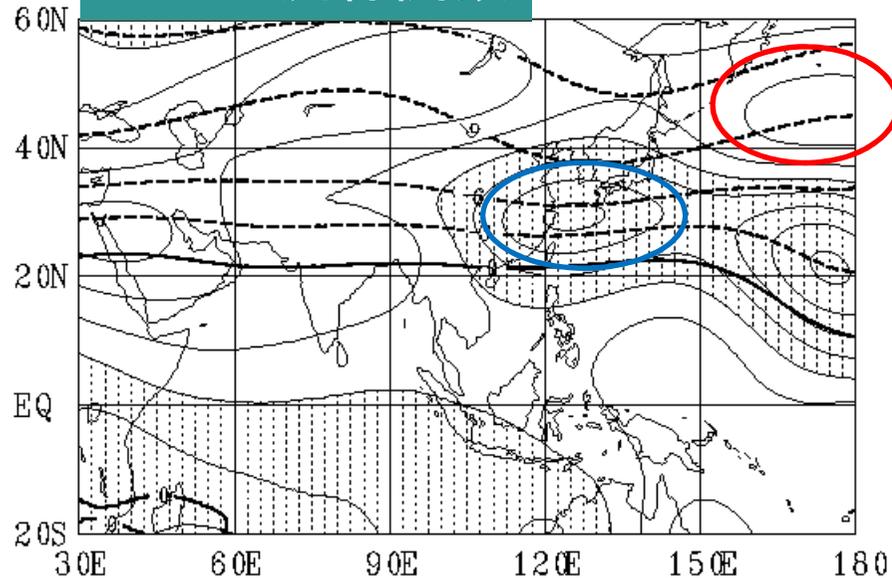
インドネシア付近で上層発散
偏差、太平洋中部と東部で
上層収束偏差。

降水量



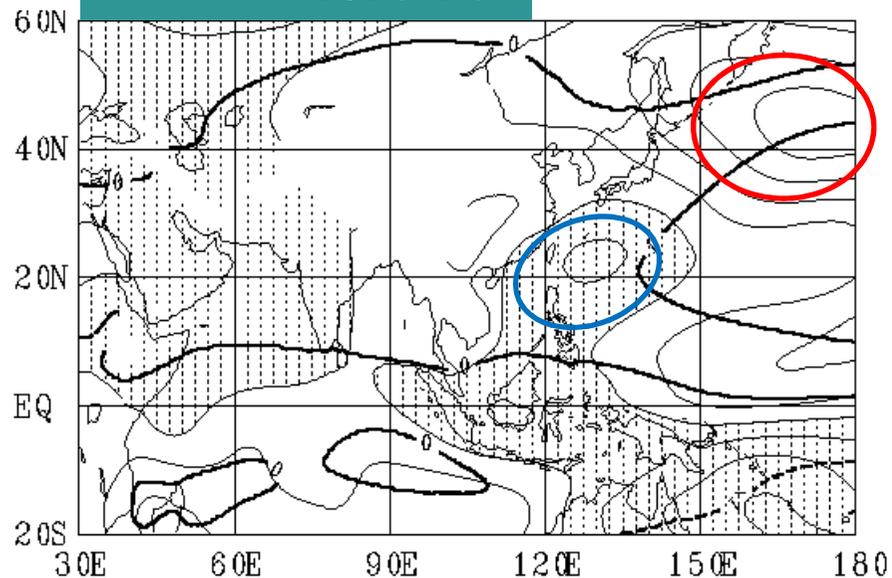
インド洋北部とインドネシア付
近で多雨偏差。日本付近は日
本海側中心に少雨偏差。

200hPa流線関数



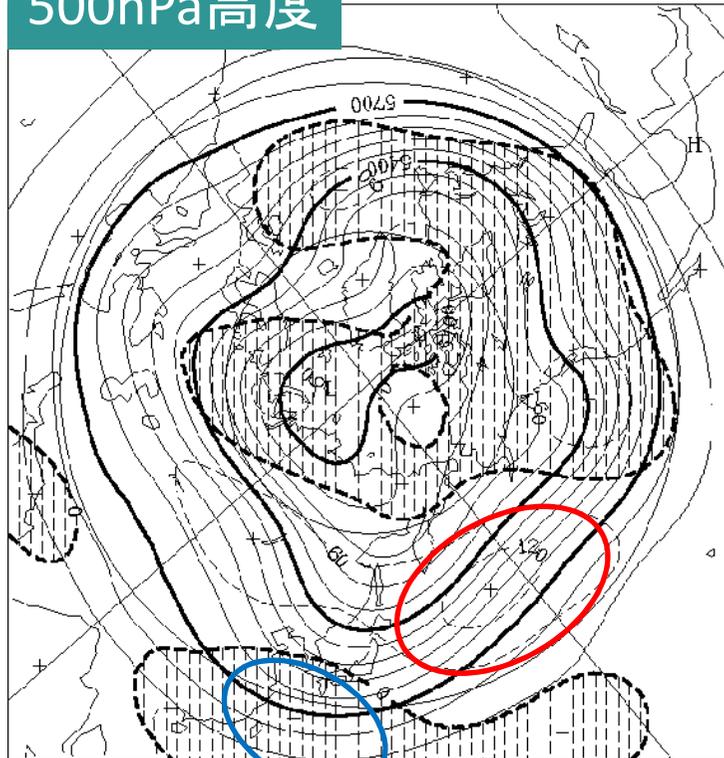
華中から日本の南では低気圧性循環偏差。
千島の東で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

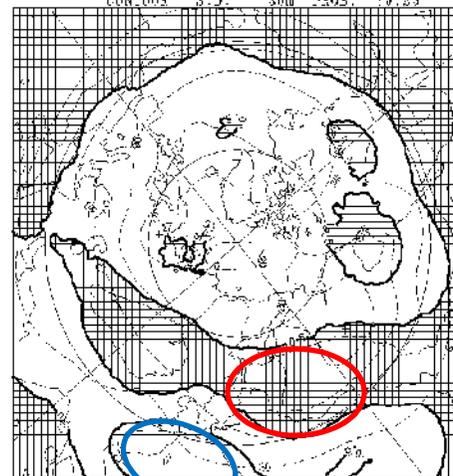
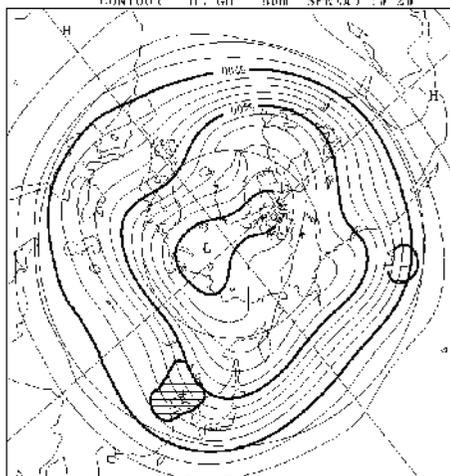


沖縄の南で低気圧性循環偏差。
千島の東で高気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。
北日本太平洋側は、南東風偏差となり、湿った空気の影響をやや受けやすい。

500hPa高度



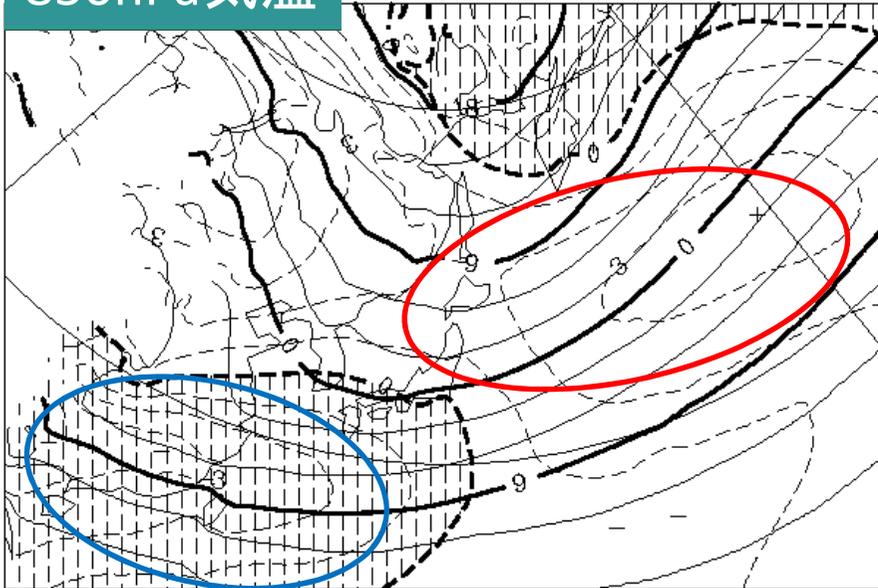
500hPa SPREAD AND HEIGHT PROB. OF H. ANOM. Y AND S.D.



北日本付近からアリューシャンの南にかけて正偏差で、北日本は高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

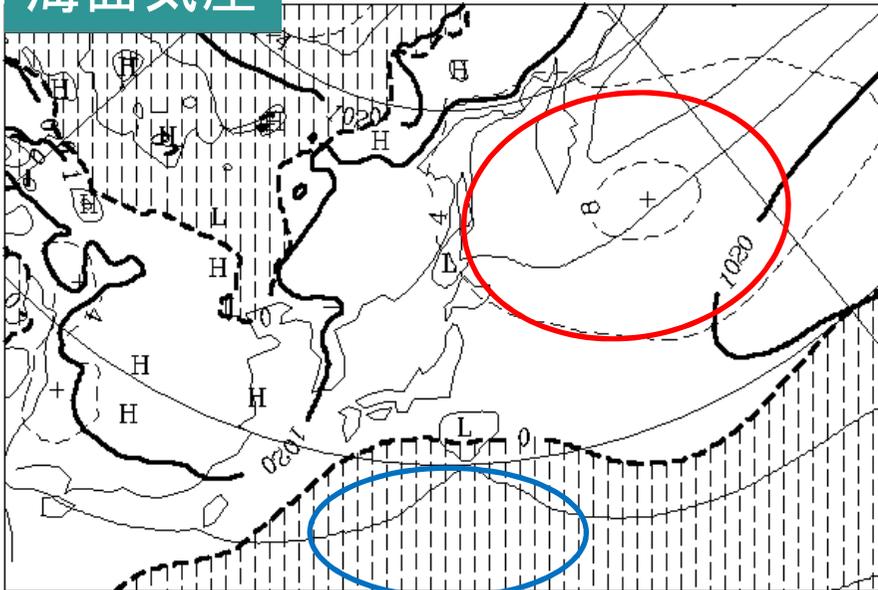
一方、沖縄付近は負偏差で、負偏差確率50%以上の領域に覆われる。

850hPa気温



北日本中心に正偏差である一方、沖縄・奄美中心に負偏差。

海面気圧



アリューシャンの南を中心に正偏差で、日本付近は西高東低の気圧配置が弱く、日本海側を中心に高気圧に覆われやすい。一方、日本の南は負偏差で、沖縄・奄美を中心に気圧の谷の影響を受ける時期がある。

想定される天候

北・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。

北・東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

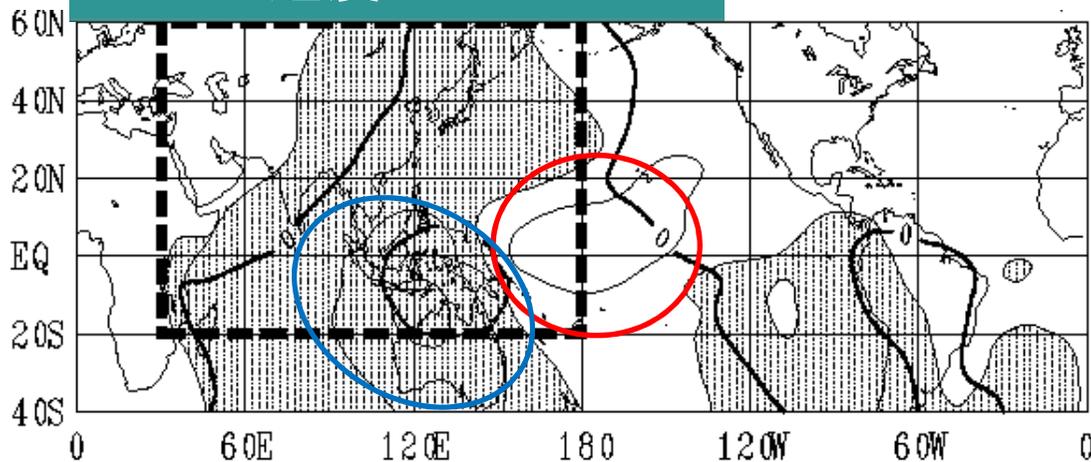
<気温>

・北日本は、暖かい空気に覆われやすいため高温。一方、沖縄・奄美を中心に寒気の影響を受けやすいため、沖縄・奄美は低温で、かなりの低温となる可能性がある。西日本は低温傾向。東日本は平年並。

<天候>

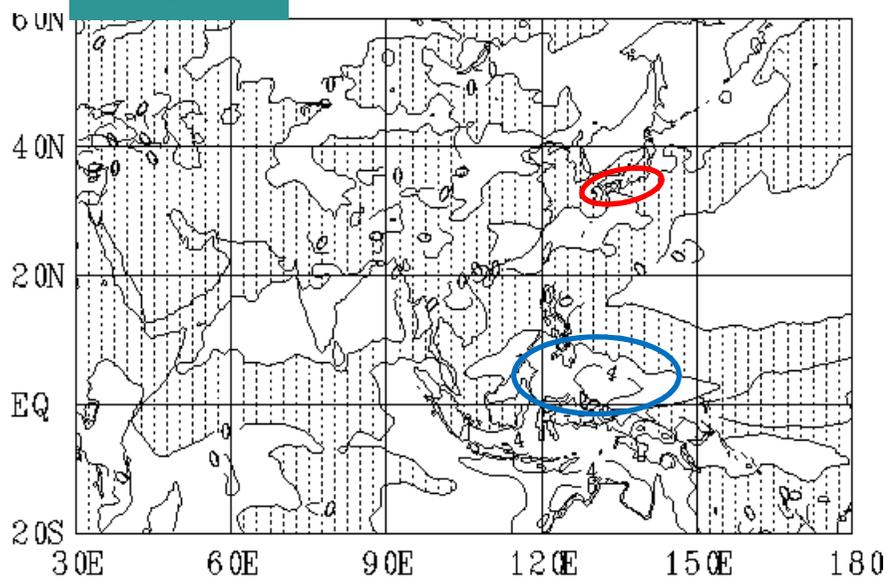
- ・北・東・西日本日本海側は、西高東低の気圧配置が弱く、高気圧に覆われやすい。
- ・北日本太平洋側は、平年並の天候を見込むが、湿った空気の影響をやや受けやすい。
- ・西日本太平洋側は、高気圧に覆われやすいが、気圧の谷の影響を受ける時期があり、並雨。
- ・沖縄・奄美は、平年並の天候を見込むが、気圧の谷の影響を受ける時期があり、多雨傾向。

200hPa速度ポテンシャル



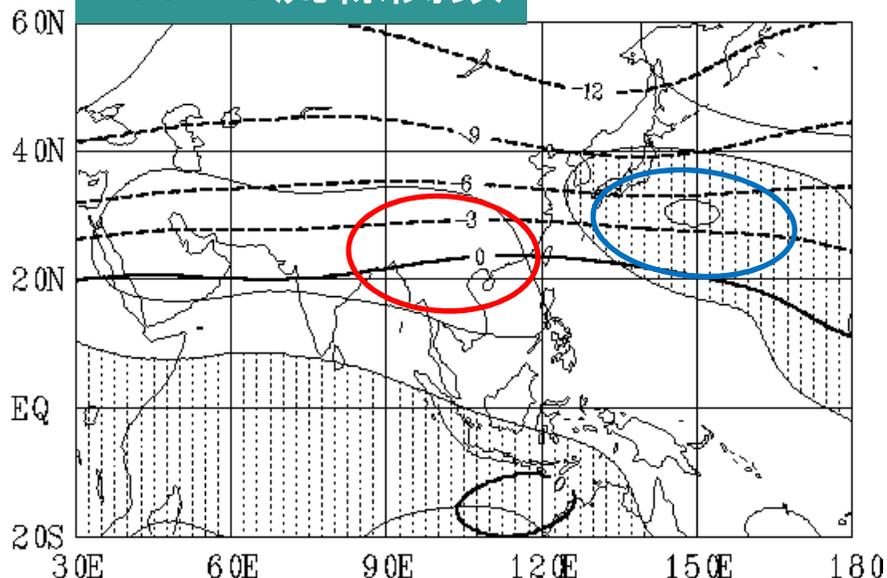
インドネシア付近で上層発散
偏差、日付変更線付近で上
層収束偏差。

降水量



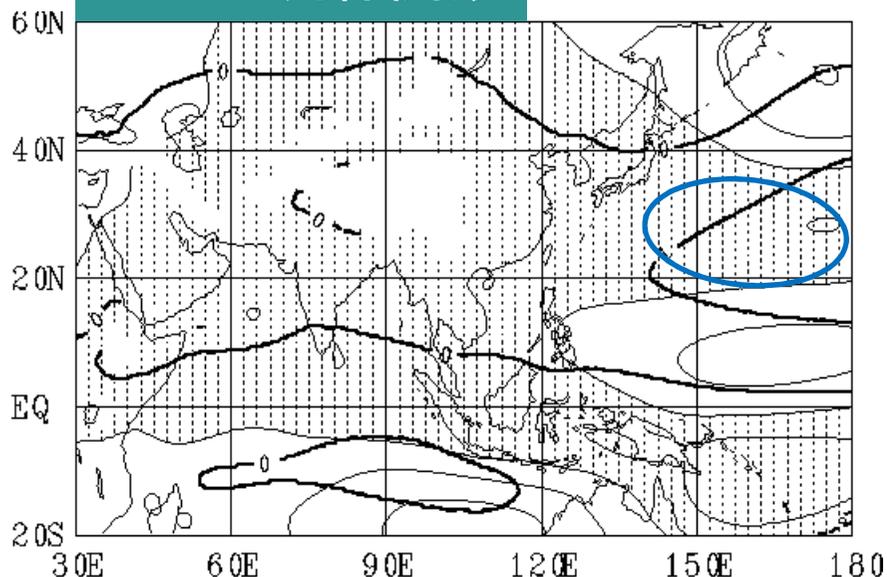
インドネシア付近で多雨偏差。
日本付近は東日本太平洋側や
西日本で少雨偏差。

200hPa流線関数



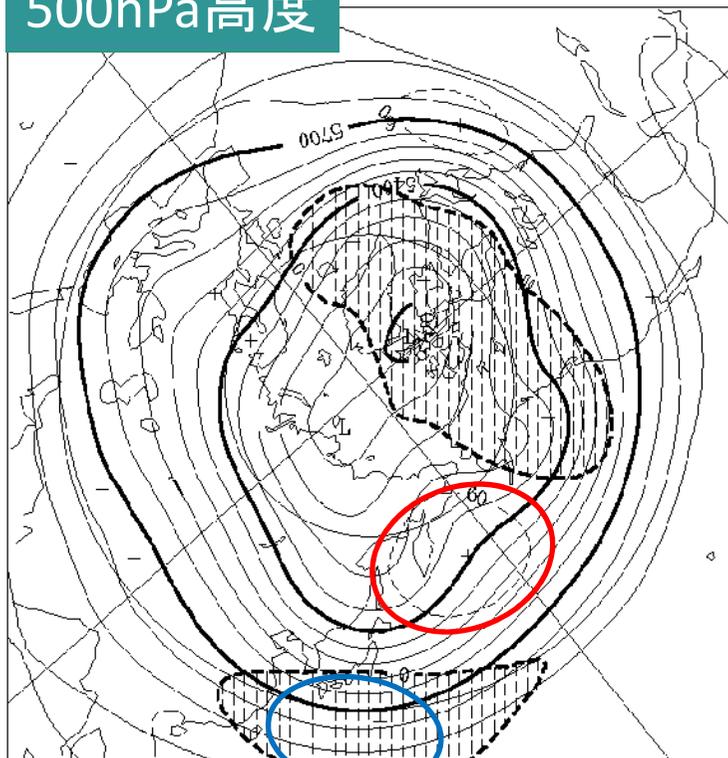
熱帯の対流活動に対応して、チベット付近で高気圧性循環偏差。日本の南東では低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

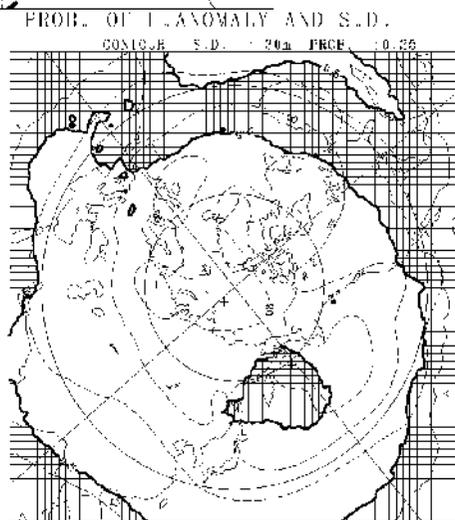
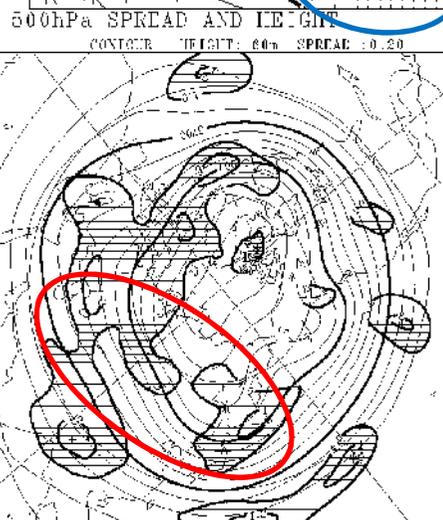


日本の南東で低気圧性循環偏差で、順圧的な鉛直構造。

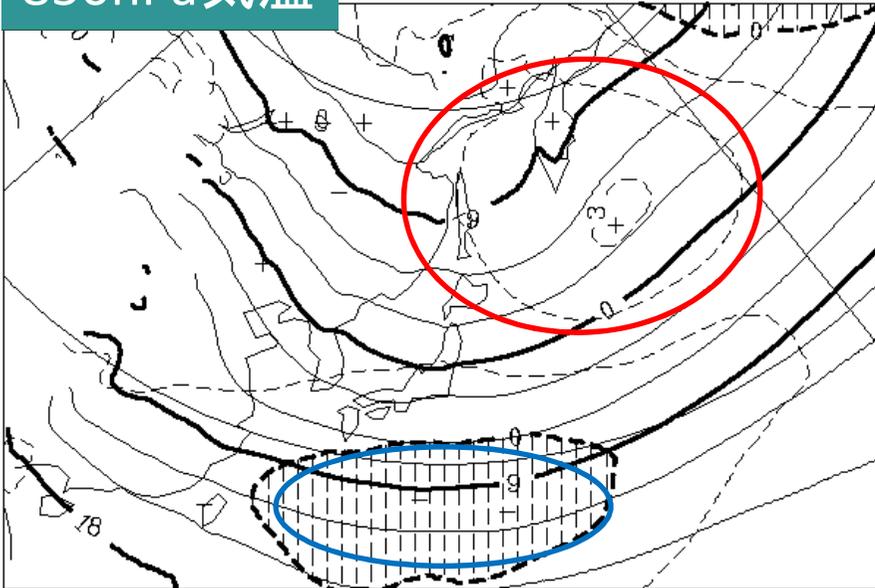
500hPa高度



カムチャツカの東を中心に正偏差。ただし、ユーラシア大陸から日本付近のスプレッドは大きく、寒帯前線ジェット気流沿いの波束伝播の不確実性は大きい。
日本の南を中心に負偏差。

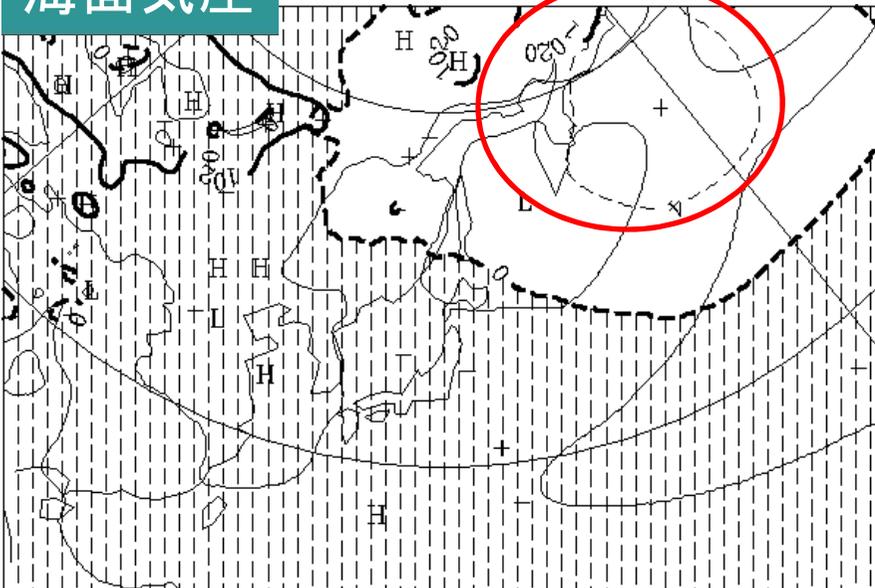


850hPa気温



千島の東を中心に正偏差。一方、日本の南は負偏差。東・西日本付近は南北の温度傾度が小さく、じょう乱の発達には適さない場。

海面気圧



アリューシャン低気圧が弱く、西高東低の気圧配置は弱い。日本付近は気圧の谷となっているが、偏差は小さい。

想定される天候

- ・北・東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・北・東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

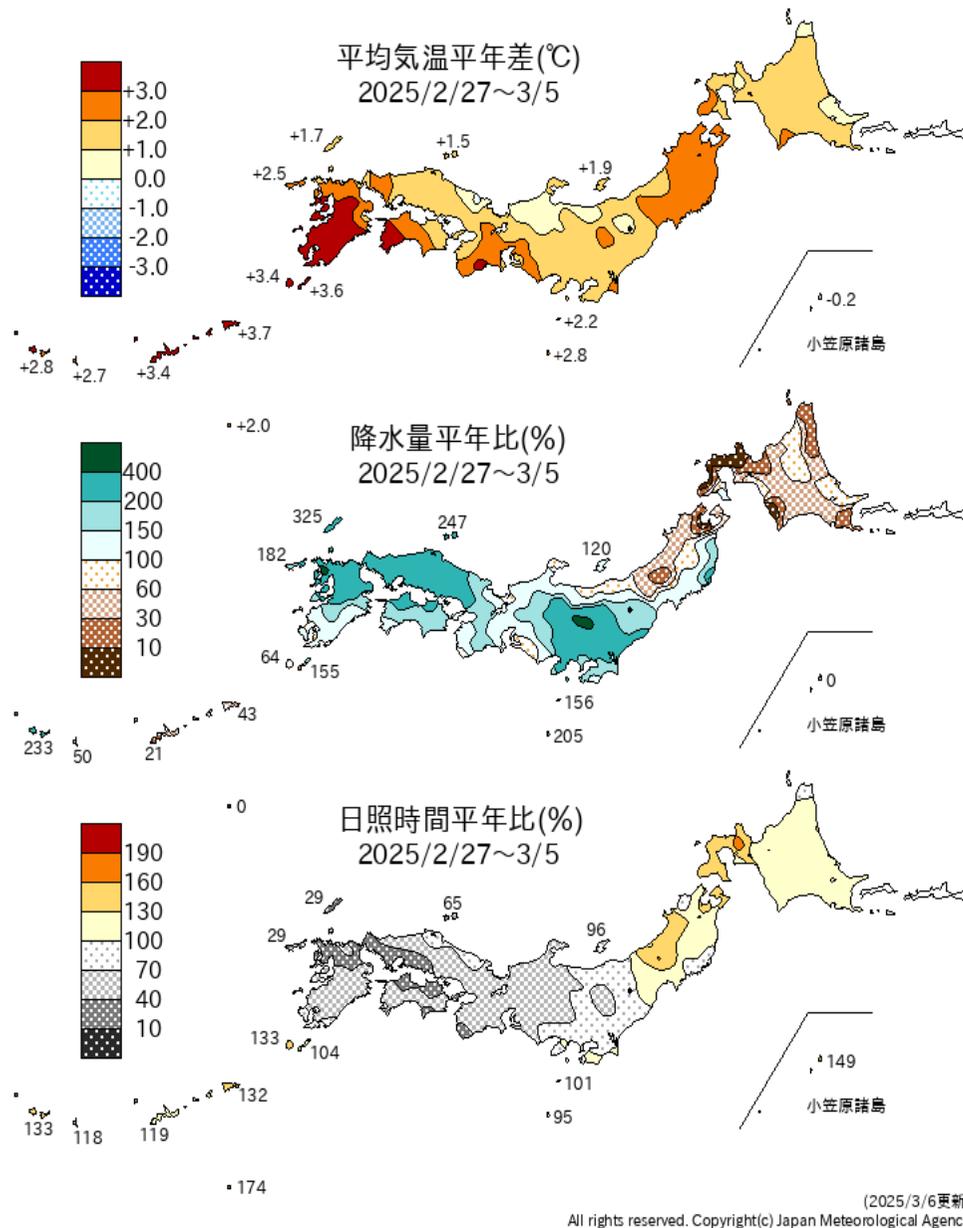
<気温>

- ・北日本中心に暖かい空気に覆われやすいため、北日本は高温、東日本は高温傾向。西日本と沖縄・奄美はほぼ平年並。

<天候>

- ・全国で平年並を見込むが、東日本太平洋側と西日本は、低気圧や前線の影響をやや受けにくい。

最近1週間の天候経過



最近1週間(2月27日~3月5日)は、2月27日から3月1日にかけて高気圧が日本付近から日本の南海上に移動し、3月2日から3月5日にかけては、東・西日本を中心に低気圧や前線の影響を受けました。このため、降水量は東・西日本と沖縄・奄美で平年を上回り、日照時間は東・西日本で平年を下回りました。一方、北日本では、高気圧に覆われて晴れた日が多くなったため、降水量は平年を下回り、日照時間は平年を上回りました。

気温は、暖かい空気に覆われやすく、高気圧の縁を回って暖かい空気が流れ込んだ時期もあったため、全国で平年を上回りました。